

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: 二チイケアセンターいわき小島

作成者: 金村 静香

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 2月 23日

(事業所としての自己評価目)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

\*グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議における 外部評価	記述
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	会議などにおいて事業理念を唱和し共有している		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	D	コロナ禍によりほぼなくなっているこれからは、地域清掃や地域の行事などに参加し、つながりを大切にしたい		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	D	コロナ禍により中止していた。今年度より第3者評価(外部評価)を運営推進会議によるサービス評価を実施し、サービスの向上に努めたい		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C	コロナ禍にて感染症対策の為、以前よりも連絡が取れている。それによりコロナ感染症の罹患者は増加していない		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束適正委員会の発足月1回の会議にて全スタッフと意見交換を行い適切なケアに取り組む	B	確認ができず、評価が難しいコロナ禍にてより感じている家族からの信頼の面が大きい
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされるがないよう注意を払い、防止に努めている	B	毎月の身体拘束適正会議や年間研修での虐待防止を学ぶ。管理者を中心に関係者間で指摘し合える環境づくりを行う	B	確認ができず、評価が難しいコロナ禍にてより感じている家族からの信頼の面が大きい
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	後見人制度を利用しているお客様が入居されているので、研修にて理解を深めている		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	C	コロナ禍において長時間の対面説明を避けていたので、重要な点のみの説明となっていた。不明な点などについては都度電話や対面にて対応した		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	C	年1回の顧客満足度調査の実施。玄関先にご意見箱を設置している	B	コロナ禍において制限がされている中、出来るかぎりの対応ができる
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	各種会議や業務内でスタッフ一人一人の意見が述べやすい環境作りを行う。意見の反映についての確認や個別面談の時間を設ける		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	C	社内のスキルアップ制度の利用。就業環境についての面談の実施するも、日々の業務で一杯な様子もみられる	C	外部からはわかりづらい書面での報告ではできているよう思う
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	法人内外の研修の案内を実施。参加の呼びかけや参加しやすい環境作りを行い、そのための勤務体制の調整も行う	B	外部からはわかりづらい書面での報告ではできているよう思う
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	グルーポーム協議会への参加。同業他社の方たちとの意見交換を行い、サービスに還元する		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	一緒に生活する者同士として、家政作業などの共同作業を通して感情の共有や傾聴し信頼関係を築いている		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	D	コロナ禍により外出がなかなか出来ていなかった。制限の緩和がされたので、これから支援していく予定		

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターいわき小島

作成者: 金村 静香

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 2月 23日

(事業所としての自己評価目)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

\*グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議における 外部評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	担当者会議での情報や本人の日々の様子を見て、思いをくみ取り把握できるように努めている		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	介護計画の更新時にアセスメントや会議を行う 本人・家族等の要望や意見を反映し、現状に即した計画を作成	B	外部が知る限りではできている
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	日々の個別記録を記載していくことで、情報の共有を図る 情報をもとに介護を行い、介護計画の見直しに活用	B	十分な情報共有がされている対応をスタッフから受けている
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	C	本人や家族の要望に応じて柔軟なサービスの提供に取り組む そのためのアセスメントを大切にする		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	コロナ禍により地域資源との触れ合いも希薄であった これから感染症に気をつけながらの支援を考えていく		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	要望に応じ、月2回の提携医による往診や週1回の医療連携として看護師の定期訪問 適した診療が受けられるよう家族の支援を頂きながら健康管理に努める		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	スムーズな入退院を行えるよう病院関係者との情報交換を行う 入院中にも状況確認をし、必要な支援を行う	A	医療機関を情報共有しながら対応できている
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	C	契約時に重度化や終末期の在り方について説明 本人や家族の意向を確認し、看取りを行う場合は、医療機関との連携を図る スタッフにも充分な研修を行う	B	ほぼできている
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	C	緊急時対応マニュアルの周知 救急救命訓練を研修に取り入れ、対応できるように努める		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C	業務継続計画(BCP)の作成 施設内では避難訓練などにより避難方法を身に着ける努力をしているが、地域との協力関係が希薄である	B	書面報告ではできているように思う 近隣との交流が少なく感じる

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターいわき小島

作成者: 金村 静香

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 2月 23日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議における 外部評価	記述
III. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	業務ミーティングなどにてコンプライアンスの各スタッフに研修を行い、コンプライアンスカードを所持 本人を尊重した対応を心がけ、職員同士で意見が言い合える環境作り	B	ほぼできている コロナ禍により外部からは分かりづらい
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのベースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	C	本人のこれまでの生活のリズムを尊重しつつ、ホームでの生活リズムに合わせてもらっている		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A	食事の際の様子や日々の会話の中から、本人の嗜好にあった食事が提供できるように努める 家政作業として一緒にできる作業を行う	A	書面で確認だが、充分にできている
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	日々、食事量や水分摂取量を把握している 個人に合わせた食事量や水分量を医療機関と相談のうえで、本人に応じた支援を行う		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	口腔ケアに関する指導を歯科医師より受けている 本人の力に応じた口腔ケアの仕方を検討し、必要な支援を行う	A	書面で確認だが、充分にできている
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握 排便状況を把握し、医療機関と相談し必要な支援を行う	B	都度相談や報告があり、できてる
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまはずに、個々にそつた支援をしている	B	個人の希望やその日の体調を考慮し、入浴介助を行う 入浴剤などを使用し、楽しく入浴できるように努める		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	本人の希望や体調に応じて休息を促す 空調などの環境の整備も行う		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	医療機関や薬剤師の指導により、適切に服用出来るよう支援する 服用後の状態に気を配り、必要な時に対応できるように努める	A	やり取りが少ない中で、充分にできている
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C	季節に応じた行事の実施 要望などを実現できるように、その人の能力を把握し、無理のない計画を立案、実行する		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	D	外出制限が緩和され、散歩に行けるようになった 本人や家族の希望に寄り添い、出かけられるように支援する		
37	お金の手持ちや使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	C	家族からお小遣いとして金庫で管理する 本人の能力に応じて、個人での財布での管理を支援する		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	家族からの電話を本人へ繋げる 手紙のやり取りも見守りを実施しながら支援し、生きがいを感じられるようにしている		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫をしている	A	空調の管理などを適切に行い、個人差がある場合は衣類にて調整する 共用の空間は全員に配慮し、居心地よく生活できる様に環境を整える 壁飾りなどで季節感を演出する	A	書面で確認だが、充分にできている

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターいわき小島

作成者: 金村 静香

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 2月 23日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

\*グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	本人の思いを傾聴する言葉や表情から読み取り、意向に沿った生活が出来るようにスタッフ間で情報共有、実践していく		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	本人の家族や友人との面会が減少しているが、スタッフが間に立ちアセスメントを行い、必要な支援を行う 対面面会の条件緩和を周知し、関係を再構築していきたい		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A	入居者全員が提携医療機関の訪問看護を受けている 日2回のバイタルチェックを行い、その日のケアを行う	A	書面で確認だが、充分にできる
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	施設主体ではなく、本人主体の生活が出来るように支援している		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	B	居室内には本人の馴染みのものを置き、居心地の良い環境の整備に努めている	B	書面で確認だが、充分にできる
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	D	条件付きにて許可 感染症の状況に応じた対応をする		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	意欲低下が起こらない様工夫した声かけや参加への呼びかけを行う 日々の共同作業の中で、生きがいや役割を見つけられるよう支援		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	自宅の延長として、リラックスして生活できる 他者との共同生活で自分の役割を見つけられるよう支援する	B	書面で確認だが、充分にできる
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	D	交流がほぼ出来てないので、これから関係を築いていきたい		
49	総合	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくことができている	B	スタッフを家族の様に親しみ、安心した生活ができるような言葉が聞かれるときがある	B	コロナ禍において制限がされている中、確認出来るかぎり対応ができる

総評

・認知症の高齢者に対する自立支援や個別ケアを大切にし、心がけた介護を行っている  
 ・前年度はコロナ禍もあり、外部への発信が十分でなかった  
 施設が行っていることへの説明が不十分で、理解があまり得られなかっ  
 た  
 ・コロナ禍でも家族と交流できるように努めていた  
 感染症対策などもしっかり行えていた  
 ・医療機関などとの連携がとれていた  
 ・災害に対して十分な情報収集を行い、対策を取れていた

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

・研修や施設が取り組んでいることに対するアウトプットが不十分  
 わかるように報告していく必要がある  
 ・2023年度の現状として、施設内に入れていなかったので信頼によって任せていた  
 ・職員の顔ぶれがよく変わり、持っている情報に差があるように思う  
 情報共有や職員の教育に努めてほしい  
 ・地域の住民としてもっと交流してほしい

参加者サイン欄

平地域包括支援センター様

小島区長様

入居ご家族様

## 帳票D

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならぬよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

#### 【目標達成計画】

優先順位 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容		目標達成に 要する期間
			目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間	
1 5	身体拘束や虐待の防止への対策や研修について 内容がわからない、	研修や対策について、適切な報告書を作成、 開示	運営推進会議にて研修内容を参加者へ周知する	6ヶ月	
2	外部との交流が少ない、	地域との交流が図れる 災害時などに助け合うことができる	運営推進会議にて施設の現状を参加者へ周知する 近隣の住民と交流(散歩やゴミ拾い時挨拶から)	6ヶ月	
3	お客様の情報がスタッフ間で差がある	報告・連絡・相談を徹底する 情報共有を積極的に行う	担当者会議・業務ミーティングなどの会議を活用 する お客様とだけではなく、スタッフ間でも雑談をする 日誌や申し送りノートで記録に残す	2ヶ月	
4				ヶ月	
5				ヶ月	

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

事業所名 ニチイケアセンターいわき小島

作成日： 令和 6 年 3 月 1 日

作成者： 金村 静香